

先日、妻からある短歌を教えてもらった。

しばらくは 離れて暮らす 『コ』と『ロ』と『ナ』 つぎ逢ふ時は 『君』といふ字に

すると、本校の掲示コーナーにも、この短歌が掲示されていた。興味が湧いたので調べてみた。

「コ」と「ロ」と「ナ」を足し合わせると「君」という文字になる。そんな内容の短歌がネット上で話題になった。新型コロナウイルスの影響で大切な人と会えないつらさや未来への希望を綴った作者によると、完成までの経緯は次のようになる。

大阪府内の百貨店で宣伝や広報を担当しながら、似顔絵を中心としたイラストを描いているタナカサダユキさん（56歳）。4月1日に自身の Facebook に上掲の歌を投稿した。

この投稿に対して「すごい発見」「天才だ」といった声が寄せられ、まもなく「この句に何かイラストつけていただけませんか」というリクエストが寄せられた。それから50分後。タナカさんが投稿したのは、さきほどの歌に大きく「君」という文字を添えたイラスト。君の字は3色に塗り分けられていて、それぞれ「コ」「ロ」「ナ」と読むことができる。

リクエストをもらって10～15分ぐらいで描きました。登場しているアマビエは友人が描いたもので、その色使いをもとに『君』を塗り分けているとタナカさん。

君という文字の中に「コ」「ロ」「ナ」を見つけたのは、母の付き添いで行った病院の待合室。母がMRI検査を受けている間、新型コロナウイルスに関連する貼り紙をぼんやり眺めていて、ハッと気づいたそうである。「昔から文字遊びや回文が好きなんです。帰りのタクシーの中で、この気づきをもとに川柳や短歌をつくれるんじゃないかと考え始めました」自宅に戻ってスケッチブックを広げ、「コロナ」「君」と書き出して思案。「自粛」「クラスター」「3密」といったキーワードを思い浮かべながら、大切な人に会えないつらさを歌うことに決めたそうである。

五七五七七に合わせるべく、コロナをコとロとナと分けた結果、ソーシャルディスタンス（社会的距離をとる行動）も表現することができた。友人からのリクエストに対して即興で描いたイラストが拡散し、これがきっかけとなって100人ほどから友達リクエストが寄せられる事態に。自分の知らないところで多くの人に届いたことに驚き、SNSの影響を実感したそうである。

「20年前なら自宅にしながらコミュニケーションをとる方法は今ほど多様ではなかったと思います。便利にはなりましたが、それでも触れ合ったりハグしたりといった直接つながることができないもどかしさがあります。あとひと踏ん張りか、ふた踏ん張りかわかりませんが、何とか乗り切りましょう」

本校では、本日をもって分散登校を終了し、明日からは次の段階へと進む。いよいよ全校生が朝から登校するようになる。4月20日（月）以来となる。5月29日（金）までの4日間は、午前中4校時の短縮授業で昼食なしで下校となる。生徒には、この4日間で生活のリズムを整えてほしい。6月1日（月）からは、感染症対策を徹底しながらも、通常の学校に戻る。4日間は、そのための試運転である。

全校生は互いに、しばらく離れていたが、明日が「つぎ逢う時」となる。お互いが『君』である。「コとロとナ=君」見事である。素敵な感性である。